vinetur

ダルモア62年の12本のうち1本、アジアで初の競売へ

予想落札価格280万～380万香港ドルの「ザ・ダルモア62年」が、11月21日のボナムズ香港ウイスキーオークションの目玉に。

2026年11月12日（木）



ボナムズは11月21日、現代のコレクター向けスコッチウイスキーの中でも屈指の希少品である「ザ・ダルモア62年」のボトルを香港で出品する。通称「ジ・アードロス・エステート」と呼ばれるこのボトルが、アジアのオークションに登場するのは初めてとなる。

このボトルは、湾仔のボナムズ香港で開催される「Whisky Masterpieces: The Curation of Rarity」の目玉となる。予想落札価格は280万～380万香港ドル（約36万～48万米ドル）。

ボナムズによると、「ザ・ダルモア62年」はわずか12本しか製造されなかった。マスターディスティラーのRichard Patersonが2002年に手掛けたこのボトルには、1868年から1939年までの4つのヴィンテージのウイスキーがブレンドされている。オークション会社によれば、最も若い原酒は62年間熟成させた後、Matusalem Oloroso のシェリー樽でブレンドされ、瓶詰めされた。

ボナムズによると、12本それぞれには蒸留所の歴史にまつわる人物、場所、または節目にちなむ固有の名前が付けられ、Patersonの署名が入っている。「ジ・アードロス・エステート」は、スコットランド・ハイランド地方のクロマーティ湾を見下ろす、蒸留所の歴史的な拠点にゆかりのあるエステートにちなんだ名称だ。

このボトルが香港に登場することは、ウイスキーの高級オークション市場でアジアが引き続き重要な役割を果たしていることを示している。希少なスコッチや日本のウイスキーには、個人コレクターから強い入札が集まってきた。ボナムズによると、今回の競売には高額な日本のウイスキーも複数出品される。予想落札価格は、Yamazaki 50 Year Old 2007 Releaseが180万～280万香港ドル、1960年のKaruizawa 47 Year Old Cask #5627が60万～90万香港ドル、Yamazaki 35 Year Oldが40万～55万香港ドルとなっている。

ボナムズのワイン・スピリッツ部門グローバル責任者、Amayès Aouliは、5月の競売でYamazaki 50-Year-Old Club NatsumeとKaruizawa 52 Year Old Cask #5627, 1960, Treasure Shipにより日本のウイスキーの世界記録を2つ樹立したとする実績を追い風に、同社が勢いを伸ばしていると述べた。また、「ザ・ダルモア62年」を市場に出るスコッチの中でも特に引き合いの強い銘柄の一つと評した。

ボナムズのアジア地域ワイン・スピリッツ部門責任者、Terrence Tangは、この地域では高級スコッチへの需要が引き続き旺盛だと述べた。また、このボトルを香港に出品することで、公開オークションにはめったに登場しない銘柄をめぐり、地元の買い手が競り合う貴重な機会になると語った。

11月21日のライブオークションは午後7時から、ボナムズ香港（Six Pacific Place, 50 Queen’s Road East）で開催される。ライブオークションに加え、ボナムズは11月18日から12月3日までオンラインオークション「Spirits Rarity: Featuring the Extravagant Collection of a Hedonist」も実施する。

オンラインオークションには、さらに希少なウイスキーが出品される。1964年のBlack Bowmore 50 Year Old The Last Cask（予想落札価格24万～34万香港ドル）、Hibiki 35 Year Old Kokutani Utsushi Ceramic Decanter（同18万～26万香港ドル）、1963年のKaruizawa 50 Year Old Cask #5132（同16万～22万香港ドル）などが含まれる。

希少なウイスキーは過去10年、主要オークションの常連となり、スコッチと日本のボトリングが最高落札価格を競うことも多い。極めて長い熟成年数、非常に限られた生産量、明確な来歴を備えた

ボトルは、特に閉鎖蒸留所や歴史的な樽、有名生産者による記念碑的なリリースに結び付く場合、強い関心を集める傾向がある。

「ザ・ダルモア62年」は、まさにこうした特徴を備えている。生産本数の少なさ、ブレンドに用いられたウイスキーの熟成年数、そして1本ごとに固有の名前が付けられていることから、二次流通市場で注目される銘柄となった。12本のうち1本を香港に持ち込むことで、ボナムズは、アジアのコレクターの需要が欧米のオークション会場でこの銘柄が集めてきた注目に見合うかを探る。